

平成29年度 元離宮二条城「築城400年記念 展示・収蔵館」の展示内容

	展示期間	展示内容	展示作品
第1期	4月20日(木)～ 6月18日(日) [60日間]	戯れる虎たち～〈遠侍〉一の間《竹林群虎図》～ 二の丸御殿の玄関にあたる〈遠侍〉の一の間から三の間は「虎の間」と呼ばれ、来殿者が控えるところ。これらの部屋に描かれる虎や豹たちには、謁見を待つ来訪者を威嚇するような猛獣らしい勇壮なポーズをとるものだけでなく、眠ったり、楽し気に駆け回ったりするものも見られます。虎たちが寛ぎ戯れる姿は、猛獣でさえ手懐けることができるこの空間の主人、すなわち将軍の強大な力を示しているのです。今回は11頭の虎や豹が描かれる一の間を展示します。その豊かな表情を間近からお楽しみください。	〈遠侍〉一の間障壁画《竹林群虎図》、〈遠侍〉杉戸絵《竹虎図》
第2期	6月27日(火)～ 9月3日(日) ※7月、8月の火曜日(当該日が祝日の場合はその翌日)は休館 [60日間]	大政奉還150周年記念展示第1弾:絵画の舞台～〈黒書院〉一の間・二の間の障壁画～ 今年、大政奉還150周年を迎えるのを記念して、教科書の挿図を通じて広く知られている《大政奉還之図》(明治神宮聖徳記念絵画館蔵)に室内の様子が詳しく描かれた、〈黒書院〉一の間・二の間の障壁画を展示します。将軍が背にする北面の大床貼付では、雪をまとう巨松と紅梅が初春を寿ぎ、東面と西面の襖や壁貼付では、咲き乱れる桜や躑躅に鳥たちが遊ぶ等、この上なく豪華な「絵画の舞台」を是非御堪能ください。なお、〈黒書院〉一の間・二の間の障壁画が一堂に会するのは、展示・収蔵館では7年ぶりとなります。	〈黒書院〉一の間障壁画《松柴垣禽鳥図》、〈黒書院〉一の間・二の間障壁画《桜花雉子図》、〈黒書院〉一の間・二の間障壁画《楼閣山水図》
第3期	9月14日(木)～ 11月12日(日) [60日間]	大政奉還150周年記念展示第2弾:歴史の舞台～〈大広間〉一の間・二の間の障壁画～ 第2期に続き、大政奉還150周年を記念して、徳川慶喜が大政奉還の決意を諸藩の重臣に伝えた場所として有名な、〈大広間〉一の間・二の間の障壁画を展示します。北面の大床貼付では、将軍を庇護するかのよう巨松が枝を伸ばし、東面の襖や壁貼付では、献上品として日本に渡来した錦鶏鳥や孔雀が将軍の権力を象徴します。このような空間が徳川幕府の終焉という「歴史の舞台」となったことには、畏怖の念すらおぼえます。なお、〈大広間〉一の間・二の間の障壁画をまとまった形で展示するのは、展示・収蔵館では初の試みとなります。	〈大広間〉一の間障壁画《松図》、〈大広間〉一の間障壁画《松錦鶏図》、〈大広間〉二の間障壁画《松孔雀図》
第4期	11月21日(火)～ 平成30年1月28日(日) ※12月、1月の火曜日(当該日が祝日の場合はその翌日)、及び年末は休館 [60日間]	湖畔の眺望～〈白書院〉の水墨山水図～ 〈白書院〉は、江戸時代の図面では「御座の間」と記されており、将軍の居室であることに加えて、ごく内輪の対面も行われたと思われ。一の間と二の間には、楼閣を擁する岩山、浜辺の漁村と船上の漁民たち、柳に囲まれた屋敷など、様々な水辺の情景が描かれます。画面に小さく描き込まれた人物たちの身分、年齢、性別も様々ですが、主として描かれるのは文人たちです。その中でも、露台や船上から湖畔を眺める文人たちの姿に御注目いただき、ともに画中の湖畔に心遊ばせるひと時をお楽しみください。	〈白書院〉一の間・二の間障壁画《西湖図》